

第37川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成27年5月26日（火）
午前10時～午前11時30分
- 3 場所 中原区役所5階第506会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（議長）、垣内委員（副議長） 犬飼委員、岩田委員、小嶋委員、関委員、高田委員、藤嶋委員
 - (2) 事務局 市民・こども局市民文化室
中村室長、高橋担当課長、石床担当係長、渡邊職員
 - (3) 事業関係者 中原区役所地域振興課 加藤係長、松本職員
- 5 議題
 - (1) In Unity開催事業ヒアリング
 - (2) 平成27年度文化アセスメント実施事業について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 委員過半数の出席により、会議が成立した旨を確認。

議題1

澤井議長 それでは、議題1の「In Unity開催事業」についてヒアリングを開始する。地域振興課から簡単に事業の概要について説明をお願いしたい。

地域振興課 「In Unity開催事業」は2000年から開始した事業であり、地域間・世代間の交流、アマチュアミュージシャンや区民相互の交流などを目的に開催している。また、昨年度から、本番の告知や、音楽による街の潤い創出などを目的に、武蔵小杉駅前のこすぎコアパークを利用して月1回程度PRライブを開催している。

澤井議長 3月のイベントが一番大きなものということか。

地域振興課 例年は3月に本番を行う。今年度は会場のエポック中原が工事で使えないため、1月に区役所で開催することを検討している。

藤 嶋 委 員 出演者の受付方法や応募状況はどうなっているか
地域振興課 公募で申込を受け、30組ぐらいの応募がある。応募者について審査を行った
うえで絞り込み、例年15～20組が本番に出場する。

垣内副議長 十数年行われている事業だが、開始当初と比べて応募者の増加状況や世代間・
地域間交流がどのように進んだか、地域にどのようなインパクトを与えているか
をお聞きしたい。

地域振興課 もう一点、200万円という費用だが、月1回のPRライブの費用も含まれて
いるのか。また、参加者の自己負担はあるのか。

地域振興課 費用については、PRライブも含めての費用であり、参加者の自己負担は無い。
応募者については、年によって増減はあるものの広がりを見せていると考えてい
る。また、様々な年代からの応募があり、世代間交流にも繋がっている。ただ、
区民への浸透はまだまでであり、PRのため、昨年从小杉駅前に出来たこすぎ
コアパークで月1回PRライブを行っている。これを定着させ、本番にどう直結
させるかが今後の課題である。

岩 田 委 員 本番では、初めて出場する人も、数回目の出場の人もいたが、選考の体制や基
準はどうなっているのか。

地域振興課 選考を含めた運営や企画は市民による実行委員会が行う。選考は、実力や集客
力などを考慮して審査される。

関 委 員 若い人から年配の方まで様々な人がおり、特にフィナーレには圧倒された。実
行委員などのボランティアがなかなか増えないと聞いたが。

地域振興課 過去には実行委員が増えて、まとまらなくなってしまったようなこともあるが、
現状は、マンパワーの不足が課題となっている。今は、事業を支えるサポーター
が実行委員会を補完しているが、今後は出演するミュージシャンが企画に関わっ
ていくような形ができればよいと思っている。

関 委 員 特にこすぎコアパークでのPRライブは殺風景な広場が一変し、素晴らしかつ
た。ただ、ある程度実行委員が揃っていないと継続していくことが大変なように
感じた。

地域振興課 普段は仕事をしている方々なので、大きな負担はかけられず、今後の課題であ
る。

高 田 委 員 拝見して、非常に盛り上がった良いイベントだったと思う。委託料は最初から
200万円程度だったのか。

地域振興課 多少の上下はあるが、概ね150～200万円の間で推移している。

高 田 委 員 この事業には地域の活性化という側面はあるのか。

地域振興課 まずは、地域・世代間の交流を目的としており、それが結果的には地域の活性
化にも繋がるものと考えている。

高 田 委 員 参加者が楽しみながらやっているということ伝わってきたのだが、自分たちで
資金を集めてやっという考え方は出てきていないのか。

- 地域振興課 市としても、そうなれば良いとは考えているが、実行委員会も運営で手一杯であり、資金集めまでの余力が無いのが実情である。入場料については、アマチュアのステージでもあり、有料化は現時点では考えていない。
- 犬飼委員 私が見たタイミングがちょうど子どものステージで、客席もほぼ満席となり大いに盛り上がっていたのだが、子どもの出演が終わると観客が一気に入れ替わるなどが課題のようにもみえた。
- それとは別に本番の選考に漏れた人がこすぎコアパークなどPRライブの舞台に立つ機会はあるのか。
- 地域振興課 PRライブがそういう機会にもなるよう、考えている。
- 小嶋委員 集客についてはプロでもなかなか人が集まらず難しい。企画はとても良かったと思う。当日会場に来られない人に向けて、You Tubeでの配信などは行っているのか。
- 地域振興課 In UnityのHPやFace Bookを設けているほか、本番についてはYou Tubeでの配信も行っている。
- (事務局追記：PRライブについても、全てではありませんが「音楽のまち・かわさき推進協議会」のHPにてUstream及びYou Tube配信がなされています)
- 澤井議長 後援にTVKなどのメディアが入っているが、こういうマスメディアは取り上げてくれているのか。
- 地域振興課 事前PRなどのほか、当日の取材などもしていただいている。
- 高田委員 会場のエポック中原は市の施設なのか。もしそうであれば、委託料200万円のうち結構な額が施設使用料として使われていることに違和感がある。現金よりも使用料を無料にする等々の多面的な支援の方法もあるのではないのか。
- 事務局 エポック中原は市の施設であるが、直営ではなく指定管理委託により民間の事業者運営を委託している。事業者は、市からの委託料とホールや会議室の貸し館収入で運営しているため、会場を無料にということは、事業者への補償が必要になるため難しいと思われる。
- 垣内副議長 アマチュアの音楽活動への支援の形はお金だけではないと思われるが、例えば演奏の許可申請を得やすくするとか、そういった支援は行われているのか。
- 地域振興課 この地域がベッドタウンということもあり、公園等でのライブ活動については、楽しむ人も居れば騒音だと思える人もいる。そうした苦情が全て公園等の管理者になされるため、ミュージシャン単独で使用申請しても基本的には許可が降りないのが現状である。こすぎコアパークでのPRライブについては、苦情等への対応は全て地域振興課で対応するという事で特別に許可を出してもらっているような状況である。
- 関委員 地域の中にも地域間・世代間の交流に興味を持っている人は大勢いる。そうした人たちを引き入れて自分たちのまちの問題として取り組んでもらうようにできれば、かなり力を発揮してもらおうことができるのではないのか。

- 地域振興課 コアパークでの演奏は昨年始めたばかりの状況であり、将来的にはもっと自由に使えるようになればとの思いはある。ただ、現状は音量の面などで高層マンションに住む新住民のコンセンサスをどうとっていくなどの課題があり、行政が間に立ってようやく開催できているというのが今の状況である。
- 高田委員 地元企業の支援について、駐車場を借りての演奏などを行っているが、資金面での支援の申し出等はないのか。
- 藤嶋委員 例えば、機材を出してもらって、代わりにパンフレットに広告をのせるなど。
- 地域振興課 検討の前段階ではあるが、本番のパンフレットに広告を入れられないかという話はある。課題は、普段仕事をしている実行委員会のマンパワーとその労力に見合う歳入が入るかという面にある。
- 澤井議長 過去の出演者でその後プロになったような人はいるのか。
- 地域振興課 事業自体は、プロを目指す人たちの足がかりや支援というような目的で行っているものではなく、把握している限りではプロになって活躍したという話は聞いていない。
- 岩田委員 市には、「音楽のまち」というプロモーションがあるが、区ごとに、事業の実施方法が異なるようだ。横の連動などはあるのか。
- 事務局 音楽関連事業を実施している部署間の意見交換の場を年数回設けているほか、区レベルでは地域振興課長会議が毎月行われており、その場で事業計画などの情報交換を行っている。その他に文化関連事業全体の庁内を横断した会議もあるが、こちらについては、もう少し有効に機能させていく必要がある。
- その他、事業レベルでいえば、例えば毎日映画コンクール表彰式の前には各区の音楽イベントで映画をテーマにしたコンサートを開いてもらうなど、個別に連携を取りながら実施しているものもある。
- 関委員 中原区で行っている子どもたちのミュージカルは、区の文化協会と連携して開催していたが、「In Unity開催事業」は文化協会と連携しているのか。
- 地域振興課 この事業については特に行っていない。
- 澤井議長 ひとつおとり、質疑も出揃ったようなので、このあたりで「In Unity開催事業」についてのヒアリングを終了したい。
- 地域振興課の皆さん、ありがとうございました。

議題 2

- 澤井議長 続いて議題 2 平成 27 年度文化アセスメント対象事業について、事務局から説明をお願いしたい。

<事務局から、新たに資料追加したミューザかわさきシンフォニーホール事業等について説明>

澤井議長 シンフォニーホールでは、フェスタサマーミュージアなど様々な事業が行なわれているが、振興計画にはそれらの事業ごとに掲載されているのか、それとも一括で掲載されているのか。

事務局 管理運営及び事業の実施を一括して指定管理委託で行っているため、ミュージアが主催する公演すべて合わせて一つの事業となっている。

澤井議長 相当なボリュームになるが。

事務局 ミュージアをアセスメントの対象とする場合は、目玉となる公演や特徴的な企画をピックアップしたうえで、手分けをしてフィールドワークを行うことになるかと思う。

藤嶋委員 ミュージアの事業に対して、外部がチェックするような機能は他にあるのか。

事務局 指定管理者の運営する事業に対して、外部の委員が評価する仕組みはあるが、文化アセスメントのように個別の公演等を実地調査して行うわけではない。その他には、ホールアドバイザー制度として指定管理者が外部の専門家から意見をいただくような仕組みのほか、毎月1回行政と指定管理者の連絡調整会議を開催し、行政が事業内容をモニタリングするようにしている。

藤嶋委員 我々が見る場合、どのような角度で入っていけばよいのか。

澤井議長 真正面から取り組むという方法もあるし、例えば、プラチナ音楽祭のように会場としてミュージアを使用している事業を選んで、部分的に見るということもできるかと思う。

プラチナ音楽祭は、ミュージアに会場使用料を支払っているのか。

事務局 使用料を支払ったうえで開催している。

澤井議長 ミュージアと民家園はかなりの規模でじっくり腰を据えてとりかかる必要があるので、両方を同時に対象にするということは難しいと思う。

関委員 プラチナ音楽祭とプラチナファッションショーはいつごろから行っているのか。
事務局 両事業とも、今年で3年目の事業である。

関委員 両方とも高齢者を対象とした事業だが、連動はしているのか。

事務局 ジャンルの異なる事業でもあり、連動はしていない。

澤井議長 候補にある区の音楽事業は昨年「In Unity」と仕組が類似している面をどう考えるか。今までやっていないジャンルでいえば、大変ではあるが、博物館関連の評価であろうか。

事務局 2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決定している中で、文化プログラムをどうするかという議論がなかなか進んでいないのだが、海外からの観光客に向けて日本民家園は有力なコンテンツになると考えている。そういった視点で御意見をいただければ、非常に参考になる。

澤井議長 民家園とその他の生田緑地の施設との間で、来客者の回遊性はあるのか。

垣内副議長 民家園は学芸を除いた管理運営の部分について他の生田緑地の施設と一括して指定管理委託を行っている。同一の指定管理者が広報等も請け負うため、スタン

プラリーの実施や連携した広報などを展開している。ただ、それぞれニーズが異なる施設であるため、相乗効果が出るのはもう少し先になるのではないかと。

藤嶋委員 三溪園でゴールデンウィークにイベントを実施したのだが、色々な国から人が来ていた。民家園もこれからオリンピックに向けてブレイクする要素はあると思う。

小嶋委員 民家園を選んだ場合、どういう視点で見ていくと建設的な内容になるか。

事務局 展示している古民家の価値等というよりは、そういったものをどううまく活用して事業展開しているか、国内外に向けてどんな方法で発信しているのか、観光客を迎え入れる体制はどうかなどを見ていただき、今後に向けて提言いただければと思う。

澤井議長 教科書的には、施設の設置目的に沿った運営がなされているかなどを見ていただき、最後は各委員の市民目線もしくは、専門家としての目線で利用するうえで不自由はないかなどを見ていただければよいと思う。

藤嶋委員 この館は教育委員会の直営か。

事務局 施設の管理運営は委託しているが、学芸部分は教育委員会が直営している。

藤嶋委員 教育委員会がやっているのであれば、忘れられていく日本文化についてどう子どもたちに伝えていくかという視点で見るとよいのではないかと。

事務局 博物館施設として教育普及は重要な使命であり、そうした視点も見ていただくうえで非常に重要である。

関委員 プラチナファッションショーは非常に話題になっている事業だが。

事務局 今年度はエポック中原で開催する。企業からの協賛も増えており、例えばメイク指導などはポーラ化粧品が全面協力してくれている。

高田委員 高齢者対策と言われれば理解できないわけではないが、行政が関わってやる事業なのかという印象はある。

澤井議長 そろそろ、具体的に御推薦いただければと思うが、高田委員はどうか。

高田委員 なかなか大変な事業ではあるが、日本民家園を対象にしてはどうかと思う。

澤井議長 今後に向けて話題性も出てくる事業でもあり、一つは日本民家園を対象にするということで、皆さんいかがか。

委員一同 異議なし

澤井議長 では、もう一つの事業についてはどうか。区が開催する地域事業を選ぶか、プラチナ音楽祭やファッションショーのような全市的な事業を選ぶか。

小嶋委員 プラチナファッションショーを見てみたいというのものもあるが、プラチナ音楽祭はミュージアムを使っているのもあるので、どのように活用しているかなども見るのではないかと。

犬飼委員 来場者数を見てもプラチナ音楽祭のほうがニーズが高いように思う。

澤井議長 それでは、委員の皆さんからの意見にもあるように、平成27年度の文化アセスメント対象事業は、日本民家園とプラチナ音楽祭ということはいかがか。

委員一同 異議なし

澤井議長　　それでは、全ての議事を終了したので、これにて第37回文化芸術振興会議を終了する。

皆さん、お疲れ様でした。

(議事終了)